

【バイオナノテクノロジー（医療システム）】

仮訳

**Holst Centre、imec、East-Limburg Hospitalが
装着型遠隔モニタリング開発で協力（ベルギー）**

【ルーヴェン（ベルギー）－2013年11月21日】 imec、Holst Centre、East-Limburg Hospital（Ziekenhuis Oost-Limburg：ZOL）は、遠隔ヘルスケアや個人の健康（管理）への適用に向けた装着型センサー技術の開発を促進する戦略的パートナーシップを発表した。この協定は、ヘルスケア分野で最も重要視されている遠隔モニタリングの開発に焦点を当てて、新たな技術や適用の迅速な検証を可能にするため、Holst Centre と imec の専門技術と ZOL の卓越した医療技術を統合するというものである。

リアルタイムの装着型遠隔ヘルスケア・モニタリングは、心疾患や糖尿病のような慢性疾患の治療に革命をもたらす。診断を受けている患者は、頻繁に通院したり、長く通院したりする必要がなくなると同時に、元気だがハイリスク群にいる人々は、病状の異変の初期警告を知らせてくれるあまり目立たないシステムを利用することができる。

Holst Centre、imec、ZOL によるこの提携は、そのようなシステムの開発の加速を目指す。ZOL と Mobile Health Unit（ZOL と Hasselt University の共同イニシアティブ）の臨床医は、実際の医療現場で実際の患者に対し、Holst Centre と imec の装着型遠隔モニタリング技術の検証を行う。こうすることで、本共同研究者が「装置を装着すると違和感はあるか」や「装置は心臓不整脈などの症状を検知できるか」といった問題に答えることを目指す。

加えて、装着型遠隔モニタリング技術がまだ対処されていないヘルスケアニーズを上手く取り込む方法を明確にすべく、本共同研究者は臨床的及び技術的知見を共有する。これにより、既存の解決法の改良や新たな機器の開発がもたらされる。また、この長期の提携が、共同研究のより調査的な機能を可能とし、将来起こりうる臨床的必要性に取り組める。

「臨床的知見と技術的ノウハウの結合は、遠隔モニタリングシステムをタイムリーに開発していくに当たり不可欠である。しかし、病院と技術開発業者の提携は、お互いパートナーを見つけるのが難しいため、珍しいことである。患者やヘルスケアの専門家のニーズに現実的に適合する技術を作り出すために、我々が最初から提供している医学的知見を応用できる技術開発の最前線にいるパートナーが Holst Centre と imec にはいる。」と語る

のは、ZOL のプロジェクト・コーディネーターの Lars Grieten 氏は語る。

「ZOL と Mobile Health Unit は、率先してベルギーの遠隔モニタリング技術の普及を行っており、彼らは、病院から自宅まで対応する装着型ヘルスという我々の構想に対して自然に適合している。異なった及び補完的な視点から同じ課題の探求に力を注ぐ 2 つのグループがまとまることにより、我々は今日そして将来のヘルスケアの専門家が直面する問題点に対して積極的且つより上手く取り組んで行ける。」と語るのは、Holst Centre/imec のプログラム・マネージャーの Julien Penders 氏である。

本パートナーシップは、すでに成果を出しつつある。11 月に行われた Wireless Health 2013 において、本研究者は睡眠時無呼吸症候群を検知する装着型センサーの利用に関する小規模なパイロット研究を発表している。

翻訳：NEDO（担当 広報部 室井 紗織）

出典：本資料は、imec（Interuniversity Microelectronics Center）の以下の記事を翻訳したものである。

“Holst Centre, imec and the East-Limburg Hospital join forces on wearable remote monitoring”

http://www2.imec.be/be_en/press/imec-news/imecholstzo.html

Used with Permission of imec